

R6 地域こん談会まとめ

案件番号	自治会名	こん談案件	回答内容	回答者	取組状況	取組状況の説明事項
1	河原林町自治会	○七谷川左岸の防災道路として「和らぎの道」の河原林町への延伸計画促進について ・現時点での進捗状況及び今後の事業計画・スケジュールをご教示願う。 ・七谷川の改修工事の促進について支援願う。	七谷川左岸の防災道路整備、和らぎの道延伸については、以前から「七谷川周辺整備を考える会」や河原林町自治会を中心に、七谷川河川改修と合わせて協議を行ってきており、令和4年度から地域の防災道路として道路詳細設計業務を実施し、昨年度に一定完了していることから、七谷川や府道の管理者である京都府と協議を進めているところです。 1. 今年度、河原林自治会等と調整を行いながら、用地整理及び補償調査も進めていきたいと考えており、用地の寄付及び補償物件の移設完了後、まずは、防災道路としての整備を実施することになると考えています。 今後の当該事業の進捗については、京都府の河川整備事業との連携のもと進めていきたいと考えていますが、何より地元の皆様方のご協力無くしては事業実施できませんので、今後ともご協力いただきますようよろしくお願いします。 2. なお、和らぎの道の延伸としての修景整備等については、今後、事業実施に向けた財源の確保に係る整備手法の検討を行うとともに、河原林町自治会と協議を行い、計画策定を進めていきたいと考えています。 また、京都府が鋭意進めている七谷川の河川改修工事については、今年度は天井川区間で昨年度実施箇所よりも上流約80mの河床掘削、護岸工及び市道下砂股東垣内千線(第三陸間)の橋梁下部工(左岸右岸ともに)を実施予定と聞いています。今後も引き続き、京都府と連携を図りながら七谷川の早期課題解消に向け、京都府と連携していきたいと考えています。	まちづくり推進部長	1:①実施 2:⑥その他	こん談会時の回答のとおりです。
		【質問等】 令和6年度から動く期待はあるが、下流側から延伸工事を始めると聞いているが実際のスケジュールは？	用地提供をいただくのに寄附をいただけるのであれば登記を進めます。道路整備を進めていくため、まず今年度は用地確定を進めたいと思います。その後トイレや駐車場などどこになにがほしいかは別途調整させていただきます。高さ調整を含め既存の道の接続など具体的な設計は来年度以降具体的に国からの補助金をもらいながら順次進めて行きたいと考えています。	市長 (まちづくり推進部長)	⑥その他	こん談会時の回答のとおりです。
2	河原林町自治会	通称「南河原」(七谷川の分水路)の利用計画のお願いについて ① 現状の南川原は雨水の排水路となっている。豪雨の度に市道の横断する3地点で雨水が溢れ、道路が冠水し通行が困難となる。 ② 上流の南川原に沿って走る市道は幅員が狭く、車の離合は困難な状態。南河原を自治会館前から府道郷の口余部線まで道路として活用すれば、自治会へのアクセスも東西両方からでき、安全に通行できる。 ③ 南河原の整備により自治会前のグラウンドの整備拡大に繋がり地震等災害時の避難場所、町民のふれあいの場として、大いに活用できる。七谷川花見時のパーク＆ウォークとして利用できるかと思う。 ④ 流域調査による結果をもとに、早期に南河原利用整備計画立案の促進をお願いしたい。	①断面が小さく、豪雨時に溢水することを確認しています。現状の流域面積から必要断面を検討し、改修の必要があると考えています。 ②既存市道の幅員が狭く、南河原を道路として利用すれば、市道池尻宇津根線と府道郷ノ口余部線とのアクセスが可能になると考えられますが、計画幅員によっては用地買収が必要になることや、排水路を暗渠化することによる維持管理の問題、また府道との接続協議や警察協議といった課題もある状況です。 ③南河原を暗渠化し道路として利用することにより、自治会前のグラウンドへのアクセスが容易になり、利用形態に幅がでることが考えられますので、南河原の利用計画と合わせて検討していきたいと考えます。 ④上記の課題を検討するため、河原林町自治会にお世話になりました現況調査を基に、まずは治水面で必要断面の検討を行うため、業務委託を発注すべく予算確保に取り組んでいきたいと考えています。 また河原林町自治会が描いておられる想いを形にするためには、環境や防災といった観点からも多角的に検討する必要がありますので、今後も自治会と情報共有を図りながら、計画検討を進めていきたいと考えています。	まちづくり推進部長	①～④、 ③検討	こん談会時の回答のとおりです。

R6 地域こん談会まとめ

		【質問等】 大雨があっても安心して、長靴をはかなくてもいいような道路の設計をできるかぎり早期にお願いしたい。上流で水量が増えても大丈夫とわかったのであれば南河原を埋めてもよいのではないかと考えている。	基本的には京都府で判断するものですが、大雨の際の、七谷川上流の水量のキャパシティを検討しつつ、分水路を残すかどうかなど工事規模の大きさを京都府と協議しながら進めて行きたいと考えています。	市長 (まちづくり推進部長)	③検討	こん談会時の回答のとおりです。
3	河原林町 自治会	既存市道の側溝整備の早期実現のお願いについて 側溝は雨水等の処理に欠かせない。大雨時には道路が川のように流れている市道もある。河原林町の側溝未整備箇所が9箇所あり、長いところでは15年程前から整備していただくよう要望しているが、平成30年度に1箇所していただきその後は、「緊急度の高い箇所から順次取り組んでいく」との回答結果となっている。 区ごとの未整備箇所(高野町区2箇所、綾町区2ヶ所、中町区2箇所、北町区2箇所、上島区1箇所)がある。実態調査をしていただき、早期に側溝整備をしていただくようお願いしたい。	道路側溝の改修については、自治会から毎年多くの要望を頂いていますが、自治会との協議により、緊急性の高い箇所から順次取り組んでいます。平成25年度から令和5年度までに11箇所の側溝工事と3箇所の拡幅工事等を実施しており、今年度については、市道綾垣内東垣内線の側溝整備を実施する予定です。 その他の未整備区間についても側溝整備の必要性は十分認識していますが、市内一円の修繕工事の緊急度を考慮し、自治会と協議するなかで、順次取り組んでいきたいと考えます。 平成25年度 ・市道オノ本北垣内線 側溝設置 L= 40.6m ・市道河原尻千才線 側溝設置 L=100.0m 平成26年度 ・市道河原尻千才線 側溝設置 L= 39.0m 平成27年度 ・市道上福井綾垣内線 側溝設置 L= 69.4m 平成28年度 なし 平成29年度 ・市道中垣内北垣内線 側溝設置 L= 77.0m ・市道下島1号線 側溝設置 L= 68.5m 平成30年度 ・市道中垣内2号線 側溝設置 L= 80.0m 令和元年度 ・市道清水線 側溝設置 L= 40.0m 令和2年度 ・市道池尻宇津根線 歩道設置 L=100.0m ・市道綾垣内東垣内線 側溝設置 L= 60.0m ・市道下島本線 側溝設置・拡幅 L= 20.0m 令和3年度 ・市道綾垣内東垣内線 側溝設置 L= 60.0m 令和4年度 ・市道上島1号線 勾配調整 L= 20.0m 令和5年度 ・市道上島1号線 拡幅 L= 50.0m	まちづくり 推進部長	①実施	市道綾垣内東垣内線維持修繕工事 10月に完成。
		【質問等】 今年度要望を出したところは工事をしていただく認識でよいのか。 河原尻はただでさえ狭い道が多い上、生活に身近な道路の側溝がない。	各自治会と協議しつつ、市道綾垣内東垣内線の側溝工事(約60M)の準備(事業費400万円程度)を進めて行きます。平成25年からの進捗については上記のとおり。 市内全自治会と協議をして、順番をつけていき、順次工事を進めていきます。自治会内で優先順位をつけていただければ幸いです。	市長 (まちづくり推進部長)	①実施	10月に完成。

R6 地域こん談会まとめ

4	河原林町 自治会	カラスによる農作物の被害防止対策のお願いについて 河原林町河原尻地区の「畑団地(5.5ha)」は、野菜等の作付けをする団地。その団地での作付け野菜がカラスにより大きな被害を受けている。作付け者は現在22名で 高齢者がほとんどで野菜等を育て生計の一部にされている方もおられる。カラスの被害防止対策をしているにもかかわらず 田畑を耕運した後にカラスの群れが餌を求めて一気に集まってくる。駆除について成すべがないのが現状。野菜等の収穫被害が大きく深刻。カラスの駆除については、亀岡市として更に対策強化と野菜等の被害の実態調査もお願いしたい。	カラスの駆除については、捕獲実績を上げるため昨年度、様々な手法で試行錯誤を繰り返してきました。 具体的には、カラス捕獲檻のエサをパンだけでなくドッグフードやシカ肉にしたところ、一時的に捕獲数が増加しました。また、兵庫県丹波市からカラス4羽を譲り受けオトリに活用することや、鳥獣駆除業者からの助言によりカラス捕獲檻の周囲を遮光カーテンで囲んでみましたが、これらの取組につきましては、あまり効果がありませんでした。 昨年度のカラス駆除数は、市全体で215羽(前年305羽)であり、思うように駆除実績を伸ばすことができませんでした。 今年に入り養豚場南西側に飛来するカラスが多くなってきていることから、5月末には、農業公園内から土づくりセンター北側の丹波畜産養豚場近くに、カラス捕獲檻を移設するとともに、エサも有害鳥獣駆除業務で捕獲したアライグマの肉を与えています。 効果としては、1週間で3羽捕獲できたことから、少し手ごたえを感じており、現在は、ジャンボタニシをエサとして与えてみて効果を検証しているところです。 また、今年度から亀岡猟友会川東班を中心に空気銃を整備していただき、カラスに特化した駆除を6月から翌年1月まで取り組んでいただくこととしています。 併せまして、カラス捕獲檻の増設も計画しており、馬路町内の月読神社に設置している捕獲檻と他の場所と比較することで、捕獲対策の強化を目指します。 先日畑団地内のエンドウ豆がカラス被害にあったと聞いており、これから夏野菜の収穫も最盛期を迎えることから、本市としても野菜等の被害状況をしっかりと確認し、被害状況の実態に即した効果的な対策が実施できるよう取り組んでいきたいと考えます。	産業観光 部長	①実施	こん談会時の回答のとおりです。 今年度は、猟友会による空気銃での駆除が効果を発揮しており、1月末現在で昨年の3倍を超える815羽のカラスを駆除できました。
		【質問等】 カラスは雑食であるため、餌が豊富で耕耘した直後のミミズでさえよってくるので完全に駆除することは不可能であると聞いている。巣がどこにあるのかは特定できていない。	少しでも対策を取って被害を減らしていけるよう取り組んでいきます。	市長 (産業観光 部長)	①実施	農作物被害の減少に向けて、様々な手法によりカラス駆除に取り組んでいきます。
5	河原林町 自治会	農業公園の整備と土づくりセンター等周辺の臭気対策強化について 農業公園は「みんなが集まる憩いの場」「気楽に自然と親しまれる公園」として作られたことを前提に今後も市民が利用しやすい農業公園として整備をお願いする。今後の基本的利用形態・整備方針についてご教示願う。 また、土づくりセンターの臭気問題はいまだに解決されていない。 異臭は農業公園の利用にも影響している。 改善に向けた抜本的な取り組み方を講じていただきますようお願いする。	農業公園の利用促進については、体験公園として川東保育所園児に毎年サツマイモの植え付け・収穫を体験いただいています。他にサツマイモ、ネギ等の収穫体験も、市民参加のイベントとして、市民が農業に親しむきっかけづくりの場を提供しています。 加えて本年度は、新たな取り組みとして、農業公園内に市民農園の開園も予定しています。 今後も指定管理者である市農業公社と連携し、市民体験参加型のイベントを継続的に開催していくなど、自然と親しむ中で、市民相互のふれあい、交流を深めること目的として、市民が利用しやすい公園づくりを進めていきますので、地元からも良いアイデア等がありましたら、ぜひご要望いただければ幸いです。 土づくりセンターについては、指定管理者の市農業公社と継続的に協議しながら臭気抑制に取り組んでいるところです。 臭気抑制対策としては、臭気対策の先進地で活用されている、有機系発酵促進剤を定期的に散布しており、土づくりセンターの作業現場からも、堆肥製造過程において、臭気の抑制に一定の効果があるとの報告を受けています。現在、この発酵促進剤の活用以外にも臭気抑制の研究を進めており、今後も継続して臭気対策に取り組んでいきます。	産業観光 部長	①実施	こん談会時の回答のとおりです。

R6 地域こん談会まとめ

		【質問等】 臭気対策について、農業公園は今の姿のままでいいのか、若干の修正のみでよいのか、臭いの対策について考え方を抜本的に提示していただきたい。	豚舎からの臭いが大きなところですが、丹波畜産の経営も厳しく1,200頭以上の肥育で経営が成り立つところ、現在は50頭程度しか肥育されていません。市が取得した場合は豚舎にしないことになると考えています。土づくりセンター・農業公園の指定管理が今年度切り替えになるので、活用いただける事業者がいればぜひ紹介いただき、有効な活用に向けて取り組んでいきたいと思います。	市長 (産業観光部長)	①実施	こん談会時の回答のとおりです。
		【質問等】 有機を率先していただいていることから、堆肥のペレット化をすすめていただければ臭気対策になるのではないか。	堆肥のペレット化にはどのような機械が必要か紹介いただければ検討していきたいと考えます。 堆肥センターには牛豚のふんが搬入されているが、将来的には広域的な処理を協議しているところで、それが実現すれば臭気問題は解決するのではないかと見込んでいます。	市長 (産業観光部長)	③検討	こん談会時の回答のとおりです。
6	河原林町 自治会	竹林の整備・活用について 淡竹については食品加工会社との連携は昨年から全く進展していない。先方次第の状況。真竹についてはホテル等での需要が拡大している旨竹加工業者から聞いた。昨年京都府が八木地区で試行した「竹コミュニティ推進事業」の検証結果では「放置竹林の整備→出荷竹の伐採→搬出作業」の事業について出荷竹の伐採・搬出作業のみなら採算が取れるが最もコストのかかる放置竹林の整備を含むと採算が厳しいとのこと。河原林町の真竹について有効活用するためには、コスト面、既存竹業者との折衝など課題がある。引き続きご指導、アドバイスなどの支援をお願いする。将来的には放置竹林の整備により景観が向上し遊歩道などを設けるなど町民の憩いの場にもなればと考える。	竹の活用については、インバウンドの増加によりホテルや商業施設等で日本的モダンデザインの内装や工芸品等の需要が増大しており、京都市内の老舗竹材店においても、自ら竹林を探し求め、伐採するなど竹の供給先や作業人員の確保が大きな課題となっています。 河原林町における真竹については、竹加工業者との連携により伝統工芸品などへの利活用に向けて検討が進められているところであり、先日は、真竹から繊維を抽出し、車の内装材に活用する実証実験の協力依頼が行われるなど、各企業からも河原林町の地域資源である竹への注目が高まっているところです。 昨年度、京都府が実施した竹コミュニティ事業から、竹の買い取り価格は、真竹10mで直径9cmでは2本で、直径4cmでは12本で一束2,500円、1日で一人当たり8束の伐採ができれば2万円程度の収入が見込める試算があります。伐採業務を外発発注した場合、1日で一人当たり2万5千円の賃金が必要となることから、竹林内での伐採、出荷作業をまちづくり活動として地域住民が行うことができれば、まちづくり活動の財源確保につながると考えられます。 継続的に良質な竹材の安定供給を行うためには、放置竹林を整備し、3年おきに伐採、搬出を繰り返すことで、竹密度を維持していく体制を整える必要があります。最もコストがかかるのが荒廃した放置竹林の伐採・整理であることから、短冊状に個人所有者が連なる河原林町内の竹林を面的に集約し、協力事業者との折衝などが円滑に進むとともに、放置竹林の解消とまちづくり資金の確保につながるよう、市としても、関係機関等と連携し、具体的に竹の活用に協力していきたいと考えます。	産業観光部長	③検討	荒廃した放置竹林の伐採・整備について、3年周期で良質な真竹が供給できる体制が構築できるよう関係者と連携して、検討を進めます。
		【質問等】 竹業者と地権者との折衝に市の支援をいただければ助かる。引き続き支援を。 和歌山県に竹の活用について竹パウダーなどの事例を学びに行くことを計画している。	淡竹を活用したい大手食品加工事業者がいると聞いているため、市として中間的な役割を果たせるよう来年度に向けて検討していきたいと思います。 全国都市緑化フェアで竹のアート作品を作りたい意向もあるため、その場合はぜひご協力をお願いします。	市長 (産業観光部長)	⑥その他	河原林町の竹林活用が円滑に進むよう引き続き協力していきます。

R6 地域こん談会まとめ

その他意見等	河原林町自治会	宇津根橋の右岸に到達する道はいつ完成予定するのか。	明確ではないが、全国都市緑化フェアまでに会場へつなげるため道路拡幅を完成したいと考えています。	まちづくり推進部長	⑥その他	こん談会時の回答のとおりです。
その他意見等	河原林町自治会	宇津根橋の右岸(並河方面)はなにか動く予定はあるのか。	完成時期は明確ではないが、国営園場整備の一環で橋の整備をしているところで。	市長 (まちづくり推進部長)	⑥その他	こん談会時の回答のとおりです。
その他意見等	河原林町自治会	各区に掲示板を設置いただいているが、すぐに風雨で掲示物が劣化する。市が設置しているのか。	アクリル板により風雨対策されている自治会もあるため、一度相談していただければと思います。	総務部長	⑥その他	現在、市の掲示板の仕様を見直し、アクリル板の扉を順次設置しております。急ぎアクリル板の扉を設置してほしいとのご要望がございましたら、一度ご連絡いただきますようお願いいたします。
その他意見等	河原林町自治会	運動会の日程について、6/7は農繁期で忙しいため考慮いただきたい。	9月以降に開催していたが熱中症対策もあり日程を変更したところもあります。学校で決めていることなので、学校に伝えます。	教育長 (学校教育課)	⑥その他	こん談会時の回答のとおりです
その他意見等	河原林町自治会	第四の橋に期待をしているが、展望を伺いたい。	橋は京都府の所管であり宇津根橋が新しくなったので、市としても優先順位を考えていかなければならないと考えています。今後、府道の接続も含め京都府とも連携していきたいと思います。	市長 (まちづくり推進部長)	⑥その他	こん談会時の回答のとおりです。